

アナログアキュライザーの導入(26)

—適用箇所の検討(22)—

1. 始めに

これまでの実績で DA-3000 の入力端子にアナログアキュライザーを装着する効果を認めていますので、今回は CD 再生に応用してみることにしました。

2. アナログアキュライザーの試聴方法

アナログアキュライザー AACU-1000 を LHH-1001 による CD 再生において DA-3000 の入力に適用します。

再生経路は次のとおりです。

LHH-1001 → 【S/PDIF】 → CCV-5 → 【S/PDIF】 → DACU-500 → DAC-1
→ 【RCA】 → ExPro SV-1 → AACU-1000 → DA-3000 → 【SDIF】 →
Brooklyn DAC+ → 【RCA】 → P&G フェーダー → 【RCA】 →
しなの音蔵 300B シングル

DA-3000 はアンバランス接続のラインの入力側に AACU-1000 を装着します。また、Brooklyn DAC+は、Quantum Damping で覆います。CCV-5 には、GPS-777 から 44.1KHz のクロックを入力しています。



音源は、LHH-1001 による CD 再生です。

3. アナログアキュライザーの試聴結果

上記再生経路において、AACU-1000 を DA-3000 の入力端子に装着しますと、LHH-1001 の元来のアナログ的な音質に加えて、CD らしからぬ、エッジの取れた、繊細な表現が出るようになっていきます。オーケストラを構成する個々の楽器も質感の他、低音楽器の押出も十分です。これまでのクロック入力やアクセサリーの活用を踏まえ、LHH-1001 による CD 再生の真価が発揮できるようになったと言えます。

4. まとめ

LHH-1001 による CD 再生において DA-3000 のアンバランス接続の入力端子に AACU-1000 を装着した効果を確認しました。

以上